

令和2年度 【多可町】認知症地域支援推進員活動報告

【多可町】認知症地域支援推進員について

1 認知症地域支援推進員：8名

2 認知症地域支援推進員の役割

* 認知症相談センターとしての相談・対応

* 認知症ケアネットの普及・周知・活用

* SOSネットワークの周知・普及・徹底

* 地域支援者の仕組みづくり・支援

報告者氏名：多可町ふくし相談支援課
（地域包括支援センター）
大江・足立・高瀬・岸部

【多可町】

認知症施策全体図

認知症サポーター養成講座

キャラバン・メイト65名活動

(R2)10回開催(240名養成)

これまでに約3,929名の認知症
サポーターを養成

認知症ケアネット

「認知症になっても
べっちょない! Ver II」
として発行

絆カフェ（認知症カフェ）

「ささゆり絆カフェ」、「絆カ
フェ・フラワー」、「絆カフェ・
千ヶ峰」、「絆カフェふきのと
う」、「絆カフェこはる」の合計
5ヶ所が町内で活動中。

※R2年度は新型コロナウイルスの
影響により休止

元気あっぷ広場

各集落にて百歳体操及び認知症
タッチパネルを行い、認知症予防、
早期発見の場として活用。

※R2年度は新型コロナウイルスの
影響により休止する集落有り



あんしんはーとねっと事業

H27立ち上げ。現在、19団体
63事業所29区長が協力事業所
として登録。行方不明になる
危険があるとして、24名の方
が事前登録済。

介護予防講座

多可赤十字病院に委託し、認知
症予防教室（隔週12回）を開催

認知症初期集中支援チーム

H28立ち上げ、サポート医・チーム員とともに
訪問や検討会議を月1回開催



【多可町】 R2認知症地域支援推進員具体的活動報告

テーマ番号<③>

標題：認知症サポーターへの具体的活動支援

「チームオレンジ立ち上げに向けての検討会」の実施

【目的】

高齢化が進み、認知症の方が増加することに伴い、認知症の方が地域で安心して生活していくための仕組みづくりを早急に行う必要がある。

○チームオレンジの整備

チームオレンジの活動とは

認知症の人や家族の支援ニーズと認知症サポーターなどの支援者をつなぎ、認知症になっても安心して暮らし続けられる地域をつくるための活動。

R2年度は、オレンジチーム立ち上げ方法や活動場所等の検討を実施。



【多可町】 R2認知症地域支援推進員具体的活動報告

【検討委員会メンバー】 社協、行政(包括)職員の合計4名
※内3名認知症地域支援推進員兼務

【内容】 チームオレンジ立ち上げに向けて検討

- ①チームオレンジの活動場所を把握するため、町内の医療機関、事業所にアンケート調査を実施。
- ②チームオレンジの一員となるために受講する必要がある、ステップアップ講座の組み立ての方向性を検討。

<講座内容>

- ①認知症サポーター養成講座の簡単なおさらい
- ②自分が地域でできる事を話し合うグループワークを実施
- ③他市のチームオレンジの実際の活動を紹介
- ④今後、チームオレンジとして活動する内容(案)を紹介

【多可町】 R2認知症地域支援推進員具体的活動報告

【ワーキングチームメンバー】

町内の福祉施設事業所、居宅介護支援事業所、社協、行政(包括)
職員の合計9名 ※キャラバンメイト兼務

【内容】 チームオレンジ立ち上げに向けて、ステップアップ講座資料作成
及び講座の構成等について検討

1. (1回目)

- * ステップアップ教材の事例を通して、グループワークを行う。
→ グループワークに重きを置いた講座を実施することで実際の活動
の必要性や目的をイメージできるように働きかける。



2. (2回目)

- * 県主催のチームオレンジ推進研修会の内容をメンバーで情報共有
- * ステップアップ講座に活用する資料に関して
→ 1回目の検討事項をもとに事前に資料は作成し、最終確認。
一度、デモを実施し内容検討を行うことに決定。

※新型コロナウイルス感染拡大の影響で、予定通りに検討会や事業が進まなかったところもあるが、できる範囲での取組みは実施。

【多可町】R2認知症地域支援推進員具体的活動報告

令和3年度に
向けて



★下記対象へチームオレンジの活動について紹介

- ①認知症サポーター養成講座
受講者の内、支援ができる方(アンケートにて)
- ②社協登録ボランティア

★福祉施設事業所、絆カフェなど、チームオレンジ活動予定場所と実際に活動に向けての調整を実施。

ステップアップ講座の開催

※認知症の当事者の参画についても検討！

チームオレンジの活動をスタート

